

昭和56年1月現在石垣市及び竹富町の漁業種別漁獲量と生産額を表2に示した。石垣市の漁業種別漁獲量は合計4,227トンでそのうち沿岸かつおは25.5%、一本釣は23.1%、そしてその他の漁業（追い込み網を含む）が21.0%と上位を占めている。他は近海かつお、採草、沿岸まぐろはえなわ、採貝と3.9~7.2%の低い値であった。生産額は約27億6千万円で、一本釣がその36.3%と大きな位置を占めその他の漁業（追い込み網を含む）が、それについて25.3%となっている。最も漁獲量の多い沿岸かつおは11.4%で第3位である。残りの漁業は10%未満であり、採貝漁業が5.7%で第4位である。竹富町の漁獲量は310トンであり、その内の55.5%まで採草であり、次位は追い込み網を含むその他の漁業である。生産額では約1億円のうち、その他の漁業が43.8%を占め、採草、刺網一本釣の順となっている。石垣市は漁業種別漁獲量と生産額において、沿岸依存率が高く、竹富町では100%が沿岸の零細漁業で占める。

表2. 石垣市及び竹富町の漁業種別漁獲量と生産額（昭和56年1月現在）

	石 垣 市				竹 富 町			
	漁獲量 (トン)	漁獲量に 対する 割合(%)	生産額 (千円)	生産額に 対する 割合(%)	漁獲量 (トン)	漁獲量に 対する 割合(%)	生産額 (千円)	生産額に 対する 割合(%)
計	4,227		2,760,962		310		101,967	
近海かつお一本釣	305	7.2	109,846	4.0				
まき網	122	2.9	53,892	2.0				
刺網	90	2.1	75,738	2.7	23	7.4	17,223	16.9
沿岸かつお一本釣	1,077	25.5	313,849	11.4				
いか釣	12	0.3	19,528	0.7				
その他の釣	1,052	24.9	1,034,546	37.5	25	8.1	16,528	16.2
ひきなわ	75	1.8	31,194	1.1	10	3.2	2,974	2.9
一本釣	977	23.1	1,003,352	36.3	15	4.8	13,554	13.3
沿岸まぐろはえなわ	190	4.5	125,363	4.5				
その他のはえなわ	47	1.1	47,172	1.7				
定置網	52	1.2	52,540	1.9				
採貝	164	3.9	157,583	5.7				
採草	229	5.4	71,847	2.6	172	55.5	23,575	23.1
その他の漁業	887	21.0	699,058	25.3	90	29.0	44,641	43.8
追い込み網	327	7.7	157,012	4.2	64	20.6	18,954	18.6

(沖縄農林水産統計年報より作成)

これらの漁業活動の母体となっている八重山漁業協同組合は、昭和58年3月31日現在で正組合員数547人、准組合員195人、計742人の組合員で構成されている。

(3) シャコガイ漁業の現状

① シャコガイの漁獲量

八重山ではシャコガイは、ヒメジャコ（通称：ギィーラ）、ヒレジャコ（ウルギィーラ）、シャゴウ（スーギィーラ）、シラナミ（パインジャ）、ヒレナシジャコ（マーギィーラ）、オオジャコ（マーギィーラ）の6種類（資料9）が知られている。しかしながら統計年報ではシャコガイとその他の貝でしか区別されていない。シャコガイは全てギィーラと総称されることもあるが6種類中共にマーギィーラと呼ばれ、区別のないヒレナシジャコやオオジャコの漁獲は稀であり、ヒレ

ジャコ、シャゴウ、シラナミの3種もそれ程生息量は多くなく、用途は貝柱を除くと生食からはずれることが多いこととヒメジャコが最も多産し、高価であることから、ヒメジャコをさしているものと思われる。また統計資料の作成にあたっては、複数の標本漁家に依頼して漁獲量の平均をとり、従事者数で乗じる方法であり、漁業生産額も出されているのでこの点からもヒメジャコではないかと考えられる。そこで本文では種類名を明記して論議をする以外はヒメジャコをさすものとする。

県と石垣市のシャコガイの漁獲量を図2に示した。(資料10)。昭和48年1月以前の県の漁獲量はむき身重量であるために比較出来ない。昭和48年11月に481トン(殻つき)の漁獲量であったシャコガイは昭和51年には578トンと増加したが、この年を境に減少した。昭和52年には前年の約40%しか漁獲されず、その後は横ばいの状態であったが、55年には200トン台を割り、57年には92トンとなった。ピーク時の16%しか漁獲されなかった。石垣市の漁獲量も同様に変動し、ピークは昭和51年の213トンであり、52年に94トンまで大巾に減少した。その後も漸減して57年には11トンとなりピーク時の5%にまで激減した。

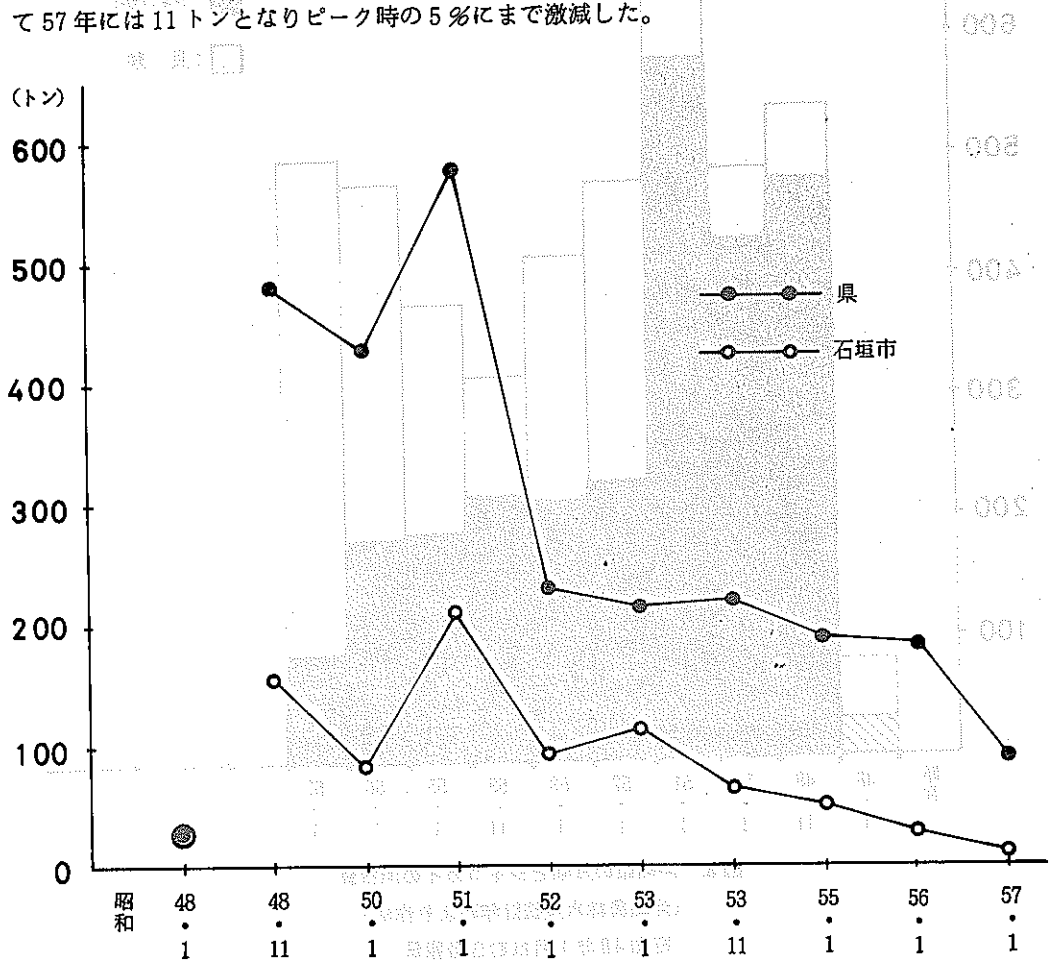


図2. シャコガイの漁獲量(沖縄農林水産統計年報より作成)

◎: 昭和48年1月はむき身重量

県の貝類とシャコガイの漁獲量を図3に示した。昭和48年1月は資料がむき身重量であるために、他の年との比較には使用しなかった。昭和48年11月は貝類の漁獲量が537トンありその内481トン、89.6%がシャコガイの漁獲量であった。50年1月、51年1月までは貝類の約85%以上がシャコガイで占めていた。また51年1月は貝類全体の漁獲量も671トンと今までの最高を示した。貝類は52年1月の483トンから53年11月の322トンまで減少を続け、その後はまた増加をし、昭和57年1月には498トンまで回復した。しかしながら貝類の中でシャコガイの占める割合は52年1月には前年の86.1% (578トン) から47.0% (227トン) に減少し、横ばい状態を続けた後、貝類が481トンに回復した56年1月には38.8% (184トン) となり、57年1月には18.5% (92トン) に減少した。

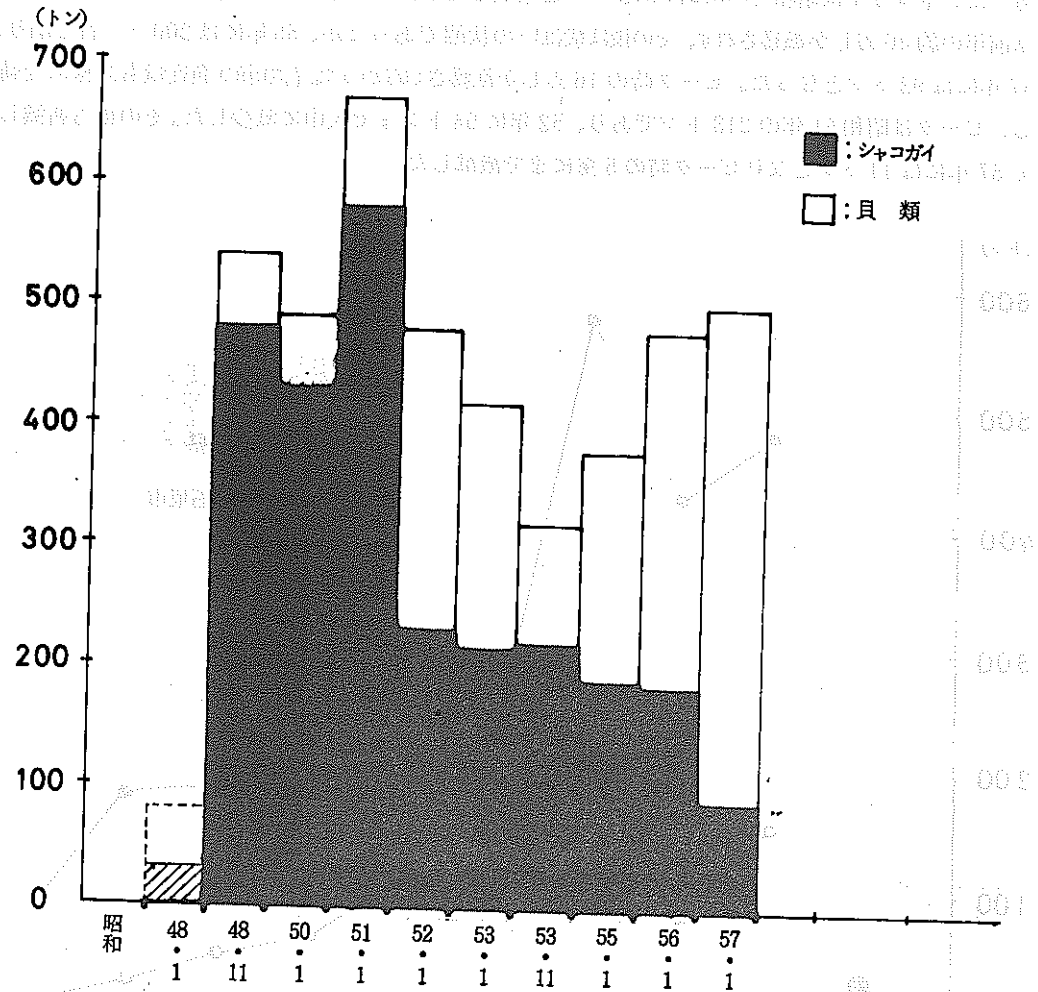


図3. 沖縄県の貝類とシャコガイの漁獲量
(沖縄農林水産統計年報より作成)
昭和48年1月はむき身重量

石垣市の貝類とシャコガイの漁獲量を図4に示した。昭和48年11月の貝類は156トンの漁獲があり、その全てがシャコガイであり、翌年の50年1月には85トンに減じたが、この年もシャコガイが100%であった。昭和51年1月は貝類が249トンと大きく増加し、そのうちシャコガイも85.5% (213

トン)を占めた。この年を境に貝類の漁獲量は年々減り続け、57年1月には対51年比の約20% (54トン)にまで減少した。シャコガイの漁獲量は52年1月には94トンとなり貝類漁獲量の48.7%に減少した。シャコガイの漁獲量はその後一時増加したものの急激な減少傾向をたどり、57年1月には11トンとなった。この漁獲量は同年の貝類の20.4%を占め、対51年シャコガイの約5%であり激減したと言える。

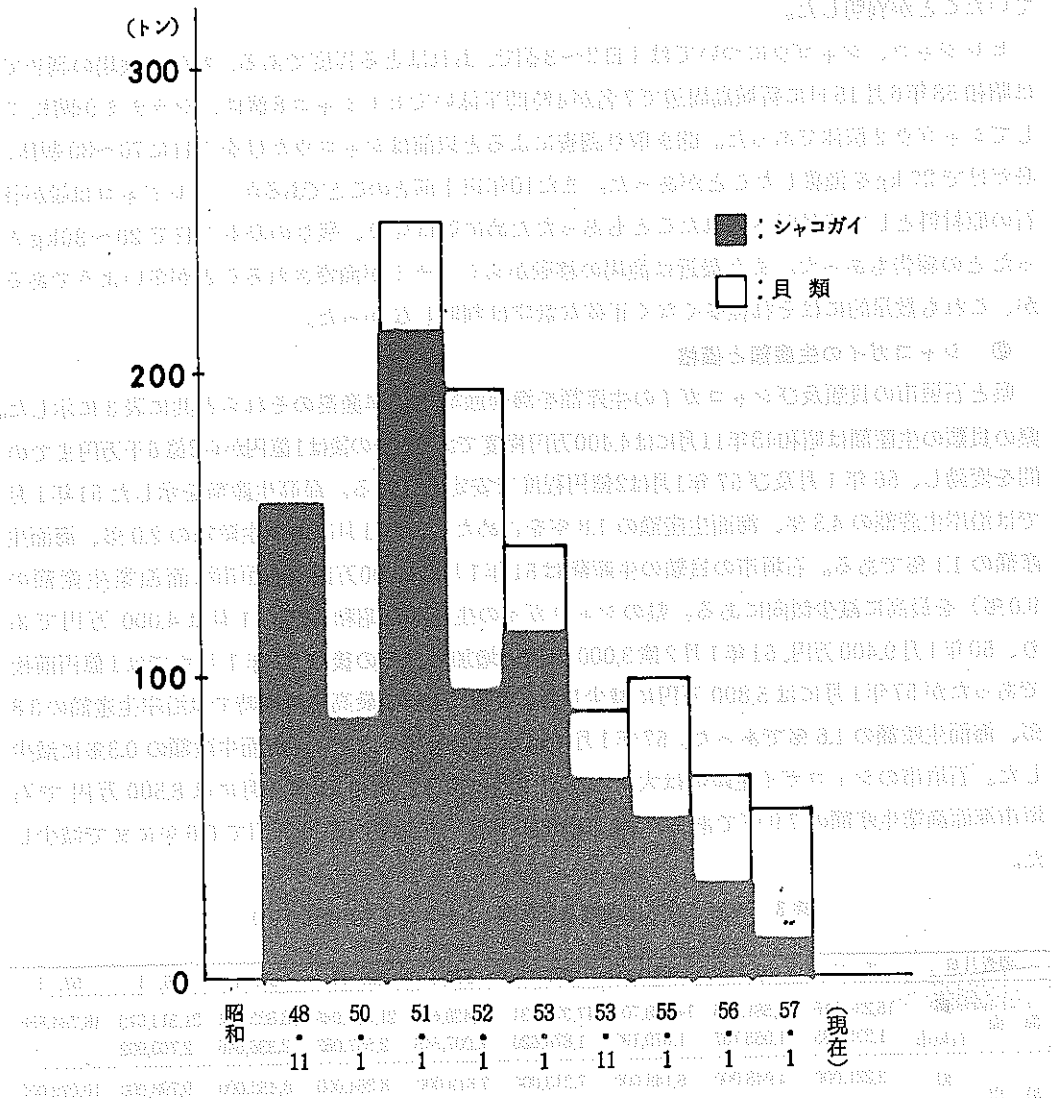


図4. 石垣市の貝類とシャコガイの漁獲量
(沖縄農林水産統計年報より作成)

聞き取り及び標本船調査による1日あたりのヒメジャコの漁獲量はむき身にし外套膜と貝柱の部分だけでの坪量で、0.5~3kg位であり、平均1kg前後である。生殖巣部重量の季節変動により、